

佐野インランドポート構想について

私は平成17年に市長に就任してから、「内陸に港を」という夢を掲げ、「内陸型コンテナターミナル」の実現を提案してまいりましたが、その夢も実現に向けて着実に進んでおります。

この「内陸型コンテナターミナル」については、私の1期目の選挙マニフェストに掲げていたのですが、市長就任後、平成17年度から市の内部に検討委員会を設置し、市として進める必要があるかどうか、内陸型コンテナターミナルとはどのようなものか、などの検討をしてきました。

その後、平成21年3月に、国土交通省交通政策審議会から答申が出され、その中で※「インランドポート」という新たな概念が示され、更には、国の港湾政策である「国際コンテナ戦略港湾」と、本市が検討している「内陸型コンテナターミナル構想」が一致したため、国や東京都をはじめとする関係自治体ともご相談をさせていただき、平成22年5月に「佐野市内陸型コンテナターミナル研究会」を設置いたしました。

研究会では、港湾計画の専門家であります筑波大学の岡本直久准教授を、国土交通省よりご推薦いただき、委員長としてお願いいたしました。委員などには、国、県、京浜港の関係者や市議会代表として議長、副議長の参加をいただき、2年間をかけ、その必要性や諸課題の調査、検証を行い、「佐野インランドポート構想書」としてまとめ、平成24年2月21日に提出していただきました。

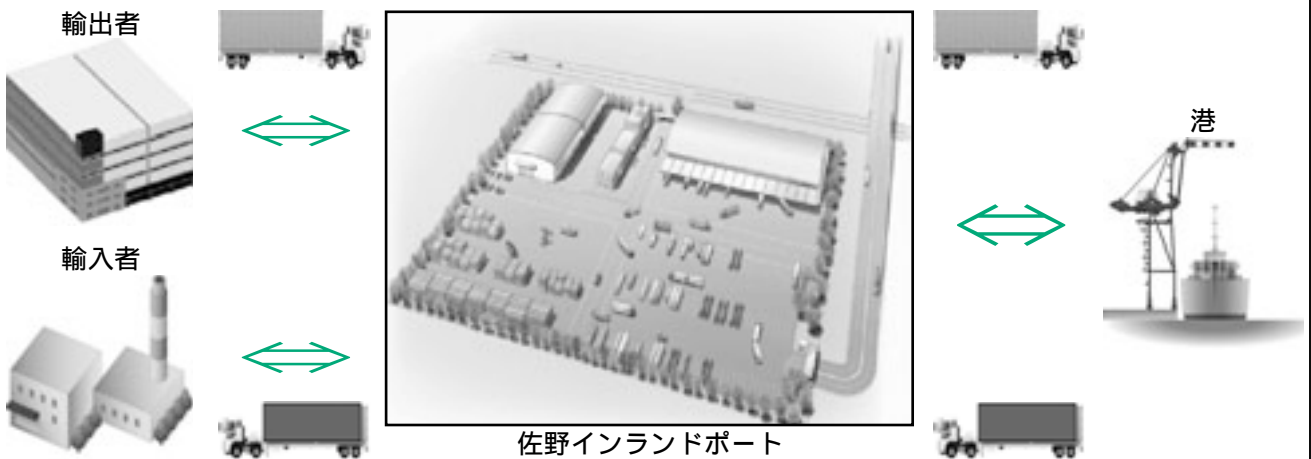
今年度は、4月から新たに市役所に「インランドポート推進室」を設置し、国・県・京浜港など関係機関と調整しながら、事業計画の調査を行います。その中で、いろいろな検討項目を整理し、佐野インランドポートの実現を推進してまいります。

佐野市長 岡部 正英

※「インランドポート」とは

国外から輸出入される貨物の多くは、コンテナという大きな箱型の輸送容器で運ばれています。そのコンテナを集配、保管、通関などできる場所として、あたかも港湾が内陸部にあるかのように機能し、共同でコンテナを利用することができる物流拠点の新しい概念です。

佐野インランドポート 物流の流れ・イメージ図



佐野インランドポートは、輸出入する貨物の集積地となり、内陸部と港の間の輸送を効率化します。

佐野インランドポート実現に向けた これまでの経過

平成17年 5月	佐野内陸型コンテナターミナル整備構 想検討委員会を設置。
平成21年 3月	国土交通省の交通政策審議会の答申で 「インランドポート」の必要性が記述さ れる。
平成22年 5月	「佐野市内陸型コンテナターミナル研究 会」が発足される。
平成23年 4月	同研究会で、「佐野市内陸型コンテナター ミナル研究会報告書」が取りまとめられる。
平成24年 2月	同研究会で、最終報告書の「佐野インラ ンドポート構想書」が取りまとめられる。 研究会の委員長より、佐野市長へ構想書 が提出される。
平成24年 4月	佐野市役所の組織に「インランドポー ト推進室」を設置。

「佐野市内陸型コンテナターミナル研究会報告書」、「佐野インランドポート構想書」は、市のホームページのインランドポート推進室のページ (<http://www.city.sano.lg.jp/kakuka/inlandport.html>) で公開しています。

佐野インランドポート構想書の検討項目

1. 現状と課題の整理
2. 基本方針の作成
3. 候補地の選定
4. 佐野インランドポート機能の検討
5. 佐野インランドポートの需要の検討
6. 事業化計画の検討
7. 今後の課題

今後は上記の構想書を踏まえ、関係機関と調整しながら進めていきます。

このインランドポートに関連した情報を、今号から広報さの1日号で毎月お知らせしていきます。

■問合せ インランドポート推進室
☎ (20) 3045



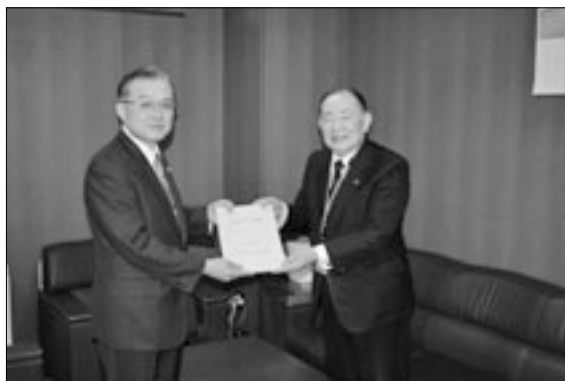
佐野市内陸型コンテナターミナル研究会



研究会で東京の港を視察



研究会の委員長（筑波大学岡本准教授）より市長へ構想書が提出



岡部市長から、国土交通省宿利事務次官へ構想書の報告

国や都・県、港湾関係など、関係機関と調整しながら進めてきました。